認　定　書

国住参建第 584 号
令和 5 年 7 月 27 日

ＪＦＥ建材株式会社
代表取締役社長　槁本 直政 様

国土交通大臣　　斉藤　鉄夫

下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 25 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
   FP120FL-0197-1

2. 認定をした構造方法等の名称
   軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・単純支持）

3. 認定をした構造方法等の内容
   別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

（別　添）

１．構造名

軽量コンクリート・デッキプレート造床（合成スラブ・単純支持）

２．寸法及び形状等

（寸法単位：mm）

項　　目	仕　　様
床　　厚	80 以上
荷重と支持間隔の関係	・支持間隔 3,200～3,600 の場合 自重を含めた全荷重(w)×支持間隔(L)の 2 乗＝125.5kN 以下 （一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。）
支　　持	単純支持

注）全荷重＝固定荷重＋積載荷重

３．構成材料

1)主構成材料

（寸法単位：mm）

項　　目	仕　　様
1 デッキプレート	・規　　格　JIS G 3352(デッキプレート) ・厚　　さ　1.0、1.2、1.6 ・山 高 さ　$75_{\pm 1.5}$ ・働 き 幅　300_{-2+8}、600_{-2+8} ・形状寸法　別添-5 参照 ・種　　類　(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)SDP1T(厚さ 1.2、1.6 に限る) (2)SDP1TG(厚さ 1.2、1.6 に限る) (3)SDP2 (4)SDP2G (5)SDP3
2 コンクリート	・種　　類　軽量コンクリート ・呼び強度　21～40 ・厚　　さ　デッキプレート山上から 80 以上

（寸法単位：mm）

項　　目	仕　　様
3 ひび割れ拡大防止用鉄筋	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)溶接金網 ・規　　格　JIS G 3551 ・種　　類　(ｲ)～(ﾁ)のうち、いずれか一仕様とする (ｲ)WFP (ﾛ)WFC (ﾊ)WFR (ﾆ)WFI (ﾎ)WFP-D (ﾍ)WFC-D (ﾄ)WFR-D (ﾁ)WFI-D ・線　　径　6 以上 ・間　　隔　100 以下×100 以下 ・かぶり厚さ　床上面から 30 (2)鉄筋(異形鉄筋) ・規　　格　JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・断 面 寸 法　D10 以上 ・間　　隔　200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ　床上面から 30
4 耐火補強筋	鉄筋(異形鉄筋) ・規　　格　JIS G 3112 又は JIS G 3117 ・種　　類　SD295A, SD295B, SD345, SD390, SD490, SDR295, SDR345 ・断 面 寸 法　D13 以上 ・間　　隔　300(デッキプレート溝部中央) ・かぶり厚さ　デッキプレート溝部底面から 40

2)副構成材料

（寸法単位：mm）

項　　目	仕　　様
①スペーサー	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)鉄材 ・線径、板厚　規定のかぶり厚さが確保でき、施工時に変形等しない線径、板厚以上 ・間　　隔　1000 以下 (2)セメントブロック ・寸　　法　規定のかぶり厚さが確保できる断面寸法以上 ・間　　隔　1000 以下
②梁と床版の接合方法	頭付きスタッド ・規　　格　JIS B 1198 ・寸　　法　φ16 以上×ℓ 110 以上 ・間　　隔　300 以下
③梁とデッキプレートの接合方法	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)アークスポット溶接 (2)すみ肉溶接

表-1　一般的な支持間隔と荷重

支持間隔(mm)	自重を含めた全荷重(kN/m^2)
3200	12.26 以下
3300	11.52 以下
3400	10.86 以下
3500	10.24 以下
3600	9.68 以下

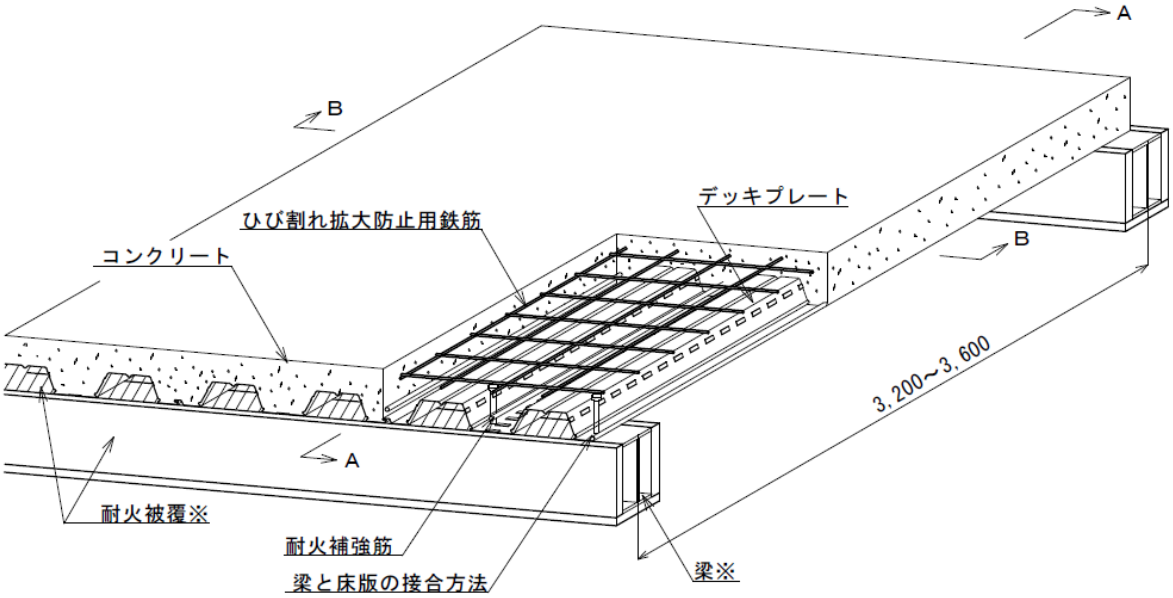
注)支持間隔が表の中間の値の場合は WL^2＝125.5kN 以下であることを確認すること

W：自重を含めた全荷重(kN/m^2)

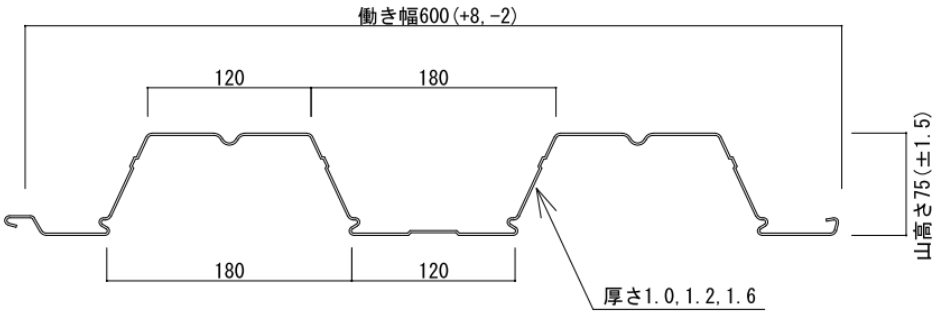
L：支持間隔(m)

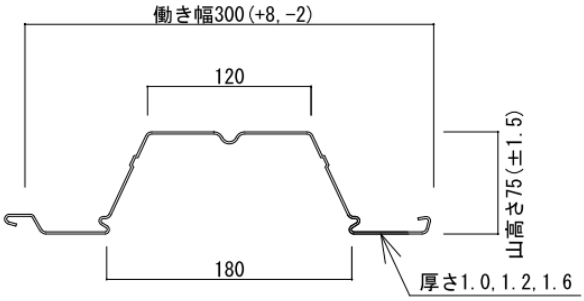
４．構造説明図

［透視図］　　（寸法単位：mm）



［デッキプレートの形状・寸法］

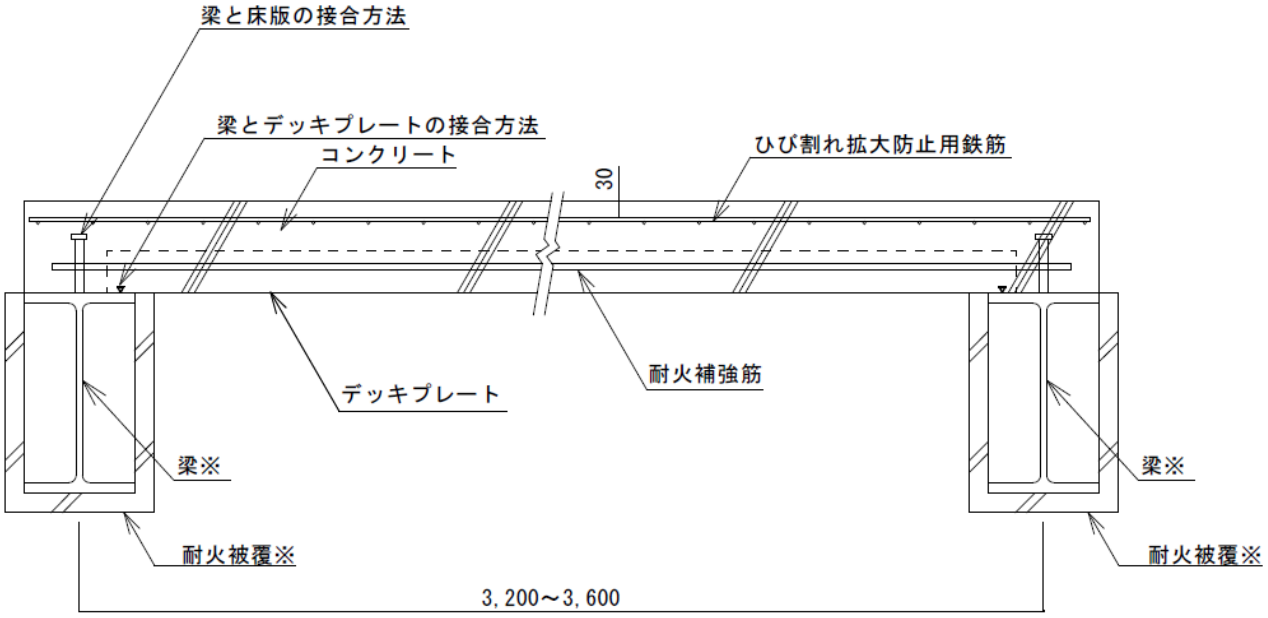




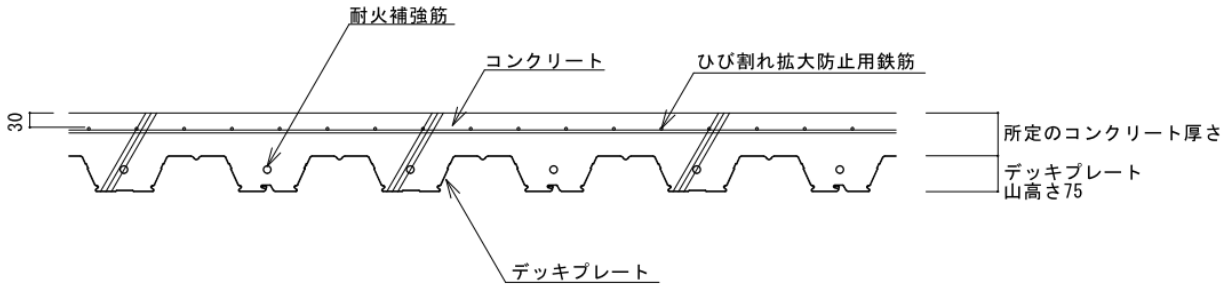
注）寸法および材料構成は２および３のとおり

※：本評価内容に含まない

［断面図］　　（寸法単位：mm）



A-A 断面図



B-B 断面図

注）寸法および材料構成は２および３のとおり

※：本評価内容に含まない

５．施工方法等

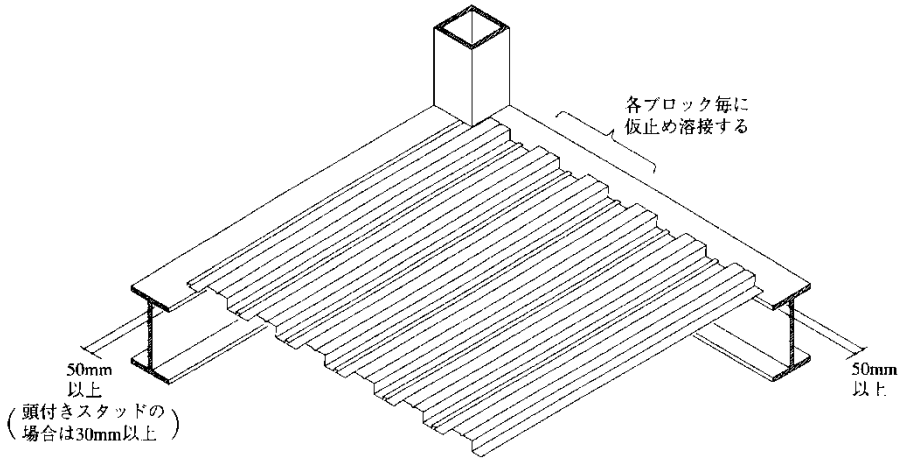
＜施工図＞

４．構造説明図と同じ

＜施工手順＞

1)デッキプレートの敷込み

支持梁の墨出し線に合わせて１枚目のデッキプレートを仮止め溶接した後、順次適当な枚数間隔（５～１０枚）毎に仮止め溶接する。デッキプレートの小口はコンクリート漏れ止めの処置を行う。

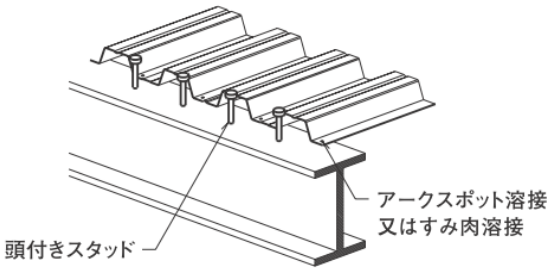


2)合成スラブと梁との接合

合成スラブと鉄骨梁とは、頭付きスタッドで接合する。

デッキプレートの溝部で頭付きスタッドを接合する場合は、各溝に１本以上接合する。

デッキプレートと鉄骨梁とは、頭付きスタッドの施工前に、すみ肉溶接、アークスポット溶接等で接合する。



3)デッキプレート相互の接合

デッキプレート相互の接合は、嵌合・溶接・ビス等により構造上・耐火上有効に行う。

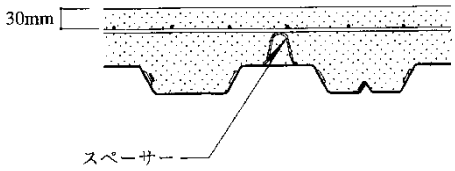
4)耐火補強筋の設置

耐火補強筋はデッキプレートの各溝部中央、溝部の底面から 40㎜ の位置に配筋する。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで配置する。

5)ひび割れ拡大防止用鉄筋の設置

溶接金網はスラブ上面より 30mm のかぶり厚さを確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。異形鉄線溶接金網を用いる場合の継ぎ手は、延長筋型重ね継ぎ手とすることができる。延長筋型重ね継手の継手方法は、GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2 による。スペーサーは 1.0m 以下のピッチで用いる。異形鉄筋を用いる場合は D10 以上をタテ、ヨコ間隔 200mm 以下で、スラブ上面より 30mm のかぶり厚を確保して、梁上を含め床全面に敷き並べる。

配筋の詳細は「JASS5　鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて、特記（例えば、構造評定や性能証明を取得した工法の GBRC 性能証明第 01-08 号改 4、または、GBRC 性能証明第 07-16 号改 2）によるか、または、JASS5 の記載例による。



6)コンクリート打設

溶接金網または異形鉄筋が移動しないように注意しながら、コンクリートを不陸なく打ち込む。コンクリートの施工については「JASS5　鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行う。

7)仕上げ

原則としてコンクリートの表面は金ごて等の仕上げを施す。

8)養生

コンクリート打込み後の養生は「JASS5　鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）に準じて行うが、初期には湿潤養生を行い、充分な養生期間をとるよう留意する。

9)梁の耐火被覆

梁に所定の耐火性能を要求される場合は、それらに応じて梁が露出しないように適切な耐火被覆を施す。